

京都帝國大學文學部考古學研究報告

第七冊

〔再刷〕

# 吉利支丹遺物の研究

附録 日本青銅利器聚成

大正十一年四月—大正十二年三月

京都帝國大學

攝津高槻在東氏所藏の吉利支丹遺物

文學博士文學士 新村 出

京都及其附近發見の切支丹墓碑

文學博士文學士 新村 出

文學博士文學士 濱田 耕作

切支丹教名合字鞍及南蠻人繪鞍に就いて

文學博士文學士 濱田 耕作

梅原 末治



## 序 言

足利季世西教我國に渡來してより、徳川初期に至る傳播弘布の狀勢頗る顯著なるものあり、其の國民生活に及ぼせる各般の影響蓋し想察に難からず。而も其後苛酷なる迫害と嚴重なる禁遏に會して、當時西教の遺物多くは破壊湮滅に歸し之を今日に残存するもの洵に鮮し。たゞ主として歐洲教士學者の記する所によりて其の一般を攷ふ可きのみ。本學教授文學博士新村出君等意を用ゐて、西教徒の遺物を聚集せんとして年あり。圖らず近年彼等教徒の墓碑の京都市中及び其の附近の地に於いて發見せらるゝものあり、其の大多數は本學考古學教室の有に歸し、或は其の保管に托せらる。是れ實に此種遺物の世に現はるゝの初めとなす。又た攝津高槻在なる東藤次郎君傳ふる所の西教徒の遺物は、全く近時の發見に係り、其の畫像教義書をはじめ各種のものに亘り、其の數量の豊富なる、史料として價值ある、特に注意を要す可きものあり。固より此等遺物に關する精到なる研究は、多くの他の資料と參考して、之を將來に期す可きものありと雖も、之を學界に發表して世人の注意を喚起するは、又た以て他に隠れたる資料を誘發出現せしむるの一端なるを思ひ、吾人が今日に至る研究の一般を公にし併せて此等と關係ある切支丹教名合字入鞍及び南蠻人繪鞍に就きて記する所を集録して、遂に本冊を成すに至れり。

吾人は新村教授の熱心と協力とによりて、考古學研究報告の一冊として、我國に於ける基督教考古學に關する研究を出版するを得たるを深く感謝す。又た此等資料の蒐集と研究とに際

して、厚意を示されたる林若吉、小山源治、關保之助、橋川正、入江波光、藤波大超、桑名節諸君、資料の研究に便宜を與へられたる東藤次郎君父子、及び資料を本學に寄贈若しくは保管を托せられたる三村便應、藤井貞存、日野幸圓、小川白楊諸君と、本冊出版に際して、寫眞寫圖其他の事業に盡力せられたる本學職員島田貞彦、梅原末治、鈴木増太郎諸氏に感謝の意を表す。

本冊の末尾には附録として、日本發見銅劍、銅鉞及銅鏃の聚成圖を添附せり。これ主ら梅原末治君の手に成る所にして、本教室の事業として、嚮に彌生式土器形式聚成を出す所あり、漸次他の遺物に及ばんことを期せるが、今幸に其の成るを機として之を附載せるに過ぎず。

大正十二年三月十日

京都帝國大學文學部考古學教室に於いて

濱田耕作

目次

攝津高槻在東氏所藏の吉利支丹遺物

一、緒言 . . . . . 一頁

二、繪畫及版畫 . . . . . 七

(一) シヤヰエル聖人畫像 . . . . . 七

(二) 瑪利亞十五支義圖 . . . . . 九

(三) 銅版天使讚仰圖 . . . . . 四

(四) 銅版耶蘇昇天圖斷片 . . . . . 六

三、彫刻及其他 . . . . . 九

(一) 耶蘇磔刑木像 . . . . . 九

(二) 聖母象牙彫像 . . . . . 九

(三) 其他の遺品 . . . . . 二〇

(四) メダ ル 類 . . . . . 二

四、吉利支丹抄物 . . . . . 二五

總 說 . . . . . 二五

(一) 御みいさのおかみやう并ニ觀念ノ事 . . . . . 四

(二)	さんちしもさからめんど	四
(三)	一七日にわくる最初のめぢたさんの七ヶ條	四
(四)	願念の本等	七

# 京都及其附近發見の切支丹墓碑

## 緒言

言	五
---	---

## 第一章 墓碑の記述

(A)	京都延命寺境内發見墓碑三基	五
(B)	京都成願寺境内發見墓碑一基	五
(C)	京都廢淨光寺境内發見墓碑一基	五
(D)	京都西寺附近發見墓碑一基	五
(E)	京都市等持院道發見墓碑一基	六
(F)	京都市椿寺境内發見墓碑一基	六
(G)	攝津高槻在千提寺村所在墓碑一基	六

## 第二章 墓碑の形式と記銘

(A)	記銘	六
(B)	碑石の形式	六

## 第三章 京都南蠻寺と其の墓地

切支丹教名紋字鞍及南蠻人繪鞍に就いて

一、緒言 . . . . . 七

二、切支丹教名合字鞍 . . . . . 八

三、南蠻人繪鞍 . . . . . 九



附錄 日本發見銅鍬銅劍及銅銚表 . . . . . 九

# 圖版目次

卷首第一	シヤビエル聖人畫像(著彩版)	對本照頁 七九
第一	シヤビエル聖人畫像	七九
第二	同 上下半部	七九
第三	瑪利亞十五玄義圖	九十四
第四	同 上一部(十五玄義圖中四圖)	九十四
第五	同 上下半部(二聖人像)	九十四
第六	銅版天使讚仰圖	一四十七
第七	耶蘇磔刑木像(前面及背面)	一九
第八	耶蘇像入銅筒其他各種遺物	一九一〇
第九	銅製メダル類	二一四
第一〇	同 上拓本	二一四
第一一	切支丹抄物外形	二五
第一二	同 內葉(一)	二五十三
第一三	同 上(二)	二五十三
第一四	同 上(三)	二五十三
第一五	同 上(四)及銅版耶蘇奇蹟圖斷片	一五、五五三



第一六	京都延命寺境内發見切支丹墓碑	五〇、五一
第一七	(1) 京都成願寺 (2) 等持院道發見切支丹墓碑正面	五、五七、六一
第一八	(1) 京都廢淨光寺 (2) 西寺附近 (3) 攝津清溪村發見切支丹墓碑	六〇、六三、六三
第一九	(1) 成願寺 (2) 等持院道 (3) 椿寺發見切支丹墓碑側面	五、五九、六〇、六三
第二〇	(1) 延命寺境内 (2) 廢淨光寺境内墓碑舊所在地	五、五六
第二一	(1) 成願寺境内舊所在地 (2) 椿寺境内墓碑存在現狀	五、五七、六二、六三
第二二	(1) 等持院道墓石所在地 (2) 同存在原狀	六〇、六一
第二三	(1) 清溪村墓碑舊所在地 (2) 同存在原狀	六三、六三
第二四	切支丹墓碑實測圖(一)(島田)	五、六六
第二五	同 上(二)(同上)	五、六六
第二六	切支丹教名紋字鞍前輪	五九、六一
第二七	同 上後輪	五九、六一
第二八	(1) 切支丹教名紋字鞍 (2) 南蠻人繪鞍側面	五九、五九
第二九	(1) 切支丹教名紋字鞍 (2) 南蠻人繪鞍下面	五九、五九
第三〇	南蠻人繪鞍居木裏面及兩輪刻銘	六三
第三一	切支丹教名紋字鞍實測圖(島田)	五九、六一
第三二	南蠻人繪鞍實測圖(濱田)	六八、六八
第三三	南蠻人繪鞍前輪	六八、六八

第三四	同	上後輪	六八五
卷末	京都市附近切支丹墓碑發見地及南蠻寺舊蹟推定地圖	<small>(陸地測量部五萬分一地形圖分載)</small>	六七六

附錄	圖版第一	日本發見銅劍聚成圖(梅原)	九一九
同	第二	日本發見銅鉞聚成圖(同上)	九一九
同	第三	日本發見銅鏃聚成圖(同上)	100-103
同	第四	日本發見銅劍	九一九
同	第五	日本發見銅鉞	九一九
同	第六	日本發見銅鏃	100-103

插圖及小圖目次

第一圖	攝津高槻在清溪村附近略圖(小野)	二
第二圖	島原叛徒旗印及鍋島侯所藏特許狀(岡山敏之助君藏)	八九
第三圖	瑪利亞十五支義圖々解	一三
第三圖 a	明治七年刊聖教日課(第七頁)	二五
第三圖 b	長崎大浦天主堂藏慶長二年(一五九七年)有家銅版瑪利亞像(對外史料美術大觀)	一七
第四圖	切支丹墓碑彫刻十字架各種	四
第五圖	支那北京柵欄兒葡萄牙人墓地(岩井武俊君寫真)	六六

第六圖	肥後國菊池郡河原村木庭發見切支丹墓碑 <small>(古賀徳義君寫真)</small>	六十七
第七圖	肥前國南高來郡東有家村切支丹墓碑 <small>(長崎縣史蹟名勝天然記 念物調査報告第一號)</small>	六十八
第八圖	長崎悟眞寺和蘭人墓地内碑石略圖 <small>(新村寫生)</small>	六十九
第九圖	支那北京柵欄兒南懷仁墓略圖 <small>(濱田寫生)</small>	七十
第十圖	同 上南懷仁墓 <small>(小川琢治君寫真)</small>	七十一
第十一圖	東京帝室博物館所藏南蠻人繪鞍	七十二
第十二圖	同 上南蠻人繪藥入	七十三
第十三圖	同 上南蠻人繪藥入	七十四
第十四圖	河本重利君所藏南蠻人繪屏風一部	七十五
第十五圖	堀江清足君舊藏蒔繪聖餅入	七十六
第十六圖	切支丹教名紋字鞍紋章	七十七
第十七圖	大友宗麟印章 <small>(印章鑿寫)</small>	七十八
第十八圖	切支丹教名合字鞍居木鞍工華押	七十九

〔注意〕再刷版に於いて圖版を變更したる爲め次の如き番號の移動を生じたり。

即ち卷首圖版第一第二を圖版第三十三イロとなし卷首圖版として新に圖版

第一を彩色版として加へたり

京都帝國大學文學部

版權所有

吉利支丹遺物の研究

大正十五年九月十五日印刷  
大正十五年九月二十日發行

定價金七圓

編輯代表者

濱田耕作

發行者

東京市麴町區飯田町二丁目二十一  
尾高豐作

印刷者

京都市下京區柳馬場三條  
桂千代造

株式會社似玉堂

發行所

東京市麴町區  
飯田町二丁目二十一番地

刀江書院

電話四番一三二二二三  
振替東京七三一四九六八



REPORT UPON ARCEOLOGICAL RESEARCH  
IN THE DEPARTMENT OF LITERATURE, KYOTO IMPERIAL UNIVERSITY  
VOLUME VII. 1922—1923

---

STUDIES ON THE  
CHRISTIAN RELICS IN JAPAN

NEAR FOUND

TAKATSUKI

*Second Impression*



THE KYOTO IMPERIAL UNIVERSITY

---

PUBLISHED

BY

THE TŌKŌ-SHOIN, TOKYO

1926



京都帝國大學考古學部研究報告目冊

第一冊	肥後に於ける裝飾ある古墳及横穴 . . . (大正六年發行) 絶版 . . .	濱田耕作、梅原末治
第二冊	河内國府石器時代遺跡發掘報告 . . . . .	濱田耕作
	河内高安及喜志石器時代遺跡調査 . . . . .	梅原末治、島田貞彦
	河内國府肥後轟等にて發掘せる人骨 . . . (大正七年發行) 絶版 . . .	鈴木文太郎
第三冊	九州に於ける裝飾ある古墳 . . . . .	濱田耕作、梅原末治、島田貞彦
	彌生式土器形式分類圖聚成(附録) . . . (大正八年發行) 絶版 . . .	
第四冊	河内國府石器時代第二回發掘報告 . . . . .	濱田耕作
	河内國府石器時代人骨調査 . . . . .	長谷部言人
	著色圖版一葉 玻璃版石版十八葉(大正九年發行)	定價五圓
第五冊	備中國淺口郡津雲貝塚發掘報告 . . . . .	清野謙次、島田貞彦
	肥後國宇土郡轟貝塚發掘報告 . . . (大正九年發行) 網版 . . .	濱田耕作、柳原政職
第六冊	薩摩國出水郡出水町尾崎貝塚調査報告 . . . . .	濱田耕作、島田貞彦
	出水貝塚の貝殻獸骨及び人骨 . . . . .	長谷部言人
	薩摩國揖宿郡指宿村土器包含層調査報告 . . . . .	濱田耕作
	破璃版、石版三十九葉(大正十年發行)	定價四圓
第八冊	近江國高島郡水尾村の古墳 . . . . .	濱田耕作、梅原末治
	日本發見金製耳飾刀劔環頭同鹿角裝具聚成	
	著色圖版一葉 玻璃版等二十九葉(大正十三年發行)	定價六圓
第九冊	豊後磨崖石佛の研究 . . . . .	濱田耕作
	破璃版、石版等 八十九葉(大正十四年發行)	定價十二圓



京都帝國大學文學部 考古學研究報告 第七冊 正誤表

頁	行	誤	正	頁	行	誤	正
例言	一	入江波江	入江波光 <sup>C</sup>	八一	一六下段	朱字	鼠色字 <sup>C</sup>
圖版目次	一	第三圖 <sup>b</sup>	第三圖 <sup>a</sup> <sup>C</sup>	八四	八	たるは、明石村の	たる明石郡の
同	二	第三圖 <sup>a</sup>	第三圖 <sup>b</sup> <sup>C</sup>	八五	一八	壁、	壁 <sup>C</sup>
同	三	堀江清足君所藏	堀江清足君舊藏 <sup>C</sup>	九〇	四	内一口を削る	壁 <sup>C</sup>
同	九	臨濟宗	曹洞宗 <sup>C</sup>	九〇	六	中山、博山	中山博士 <sup>C</sup>
本文	一五	大司祭	代官 <sup>C</sup>	同	同	鐵及鉾鋒筈	鐵鉾及鉾鋒 <sup>C</sup>
同	一九	搓可羅	搓可羅 <sup>C</sup>	同	一一	壁	壁 <sup>C</sup>
同	一〇	環	環人 <sup>C</sup>	同	二〇	劍(√)	劍(√) <sup>C</sup>
一〇	九	(圖版第二)	(圖版第五) <sup>C</sup>	九二	一三	深草村	深草町 <sup>C</sup>
二〇	二	圖版第八(1)	圖版第八(2) <sup>C</sup>	九八	四	同、同、可兒郡	同、同、可兒郡 <sup>C</sup>
同	同	但し青銅製なり	にて、木製なり <sup>C</sup>	九九	一七	淡崖雜帖	淡崖雜帖 <sup>C</sup>
二一	一四	1, 9, 5, 1	1, 9, 5, 1 <sup>C</sup>	同	二〇	の個數の條に「2」を加へ、また遺跡種	の個數の條に「2」を加へ、また遺跡種
五八	五	療淨光寺	療淨光寺 <sup>C</sup>	同	二一	類及伴出物の條に「古墳、勾玉、管玉」	類及伴出物の條に「古墳、勾玉、管玉」
六二	一三	藤浪大超君	藤浪大超君 <sup>C</sup>	同	二二	を加ふ。	を加ふ。
六三	一六	能はざるものあり	能はざるものあり <sup>(6)</sup>	一〇〇	三	羽咋郡	羽咋郡 <sup>C</sup>
六五	六	察することを得	察することを得 <sup>(3)</sup>	同	四	安部郡	安倍郡 <sup>C</sup>
六六	一七上段	凡て五基あり	凡て六基あり <sup>(3)</sup>	同	一六	衛末恒村	末恒村 <sup>C</sup>
六八	一六下段	Fig. 6	Fig. 9 <sup>C</sup>	同	同	附録圖版第二	附録圖版第一 <sup>C</sup>
七八	二四下段	口徑	口徑 <sup>C</sup>	同	上	9 安藝福本	9 安藝福本 <sup>C</sup>
同	一上段	(第十二圖)	(第十三圖) <sup>C</sup>	同	上	附録圖版第四	附録圖版第五 <sup>C</sup>
七九	二	(第十三圖)	(第十二圖) <sup>C</sup>	同	上	附録圖版第五	附録圖版第四 <sup>C</sup>
八〇	九	「宗麟」の側(一)を附	有となる <sup>(3)</sup>	同	上	劍29 紀伊箕馬	紀伊箕馬 <sup>C</sup>
八一	一二上段	第十三圖	第十七圖 <sup>C</sup>	同	上		

ERRATA IN THE VOL. VII. OF THE REPORT

Preface	line 31	Omit S. Hashikawa
Page 3	line 2	Read 搓 for 搥
Page 3	line 4	Read 漁夫獲人 (Fisher Kwanjin) for 漁夫獲 (Fisher Tamaki)
Page 14	line 12	Read 1921 for 1920
Page 15	line 7	Read 1922 for 1921
Appendix plate		Read Appendix II. for Appendix I.
Appendix plate		Add & Spear-heads after Bronze Halbarbs
Appendix plate		Read Appendix I. for Appendix II.
Appendix plate		Add & Halbarbs after Bronze Swords.

## 補遺

〔補遺一〕二四頁所載の補註(1)の末段以下印刷の都合上左の文を割きて補遺欄に追加す。

(1) 東京帝室博物館所刊明治三十九年特別展覽會列品目録

(甲) 嘉永以前西洋輸入品及參考品の九に耶蘇教遺物の部

ありて、種々の時代と場所とを發見せられしメダル類の

品目を擧げ、又伊達伯爵家藏支倉遺物の品目表の中にも

メダルと覺しきものあり。又十六なる貨幣記念牌の部に

は、天正十三年日本使節羅馬着記念銅牌の模造品と原品

との寫眞を擧げたり。

東京帝室博物館に於ては其後大正八年歴史部第四區(祭

(2) 「公教會の復活」、第二一六頁に面する寫眞。

長崎の教會にて刊せる佛文の日本公教會復活五十年記念

冊子(一九一五、大正四年刊)第十章中にも同じメダル

の寫眞を掲げたり。惜らくは、和文佛文兩本とも寫眞不

鮮明なり。

〔補遺二〕編者本稿を印刷に附せる後、本文の考證につきて増補すべき資料數點を目睹した

れば、とりあへず左に追加し置かんとす。

東京帝室博物館には、吉利支丹宗門關係の油畫類大小數多存すること人の知る如くなるが、シヤヰエル聖像及び十五支義圖を見ず。之に反して古きメダル中には數箇、東氏所藏の一部と同一なるもの並に對比すべきものあり。丹波福知山城堡中發掘のもの及び長崎奉行所宗門藏所收のものに、聖體秘跡メダル、聖母無元罪メダル、十字架捧持聖者メダルあり。本書圖版第九第十中の234に當れり。又明治元年、長崎近在浦上村教徒より押收せしもの、中には、シヤヰエル聖人記念牌、聖母子兩面牌も見ゆ。本書圖版の78に當れり。同館亦金屬製蓋物(宗七七九號)あり。圖版第八の4に比すべし。但し東氏の藏品と異なりて、周縁等に浮彫あり。

十五支義の文句には林若吉氏が仙臺附近の舊家より昨大正十一年得られし法文覺帳のうち、亦一例を見出した。即ち

「たつききひるせんさんたまりやゑさゝげたてまつる十五のくわんねんあべまりやひやく五十へんのおらしよのしだい」

と題したり。同氏別に繪入石版の聖玫瑰花冠記録一冊を藏す。西紀千六百二十三年、元和九年ジワンデルヘタの翻譯せしもの元とマニラ版なりしをベルナルド、プチジャンの再版せしものなり。構圖と文章と共に趣味深し。

東本吉利支丹抄物に見ゆるラタニヤス(連禱)に参照すべきものには、第一に東京帝室博物館の耶蘇教寫經の第二紙表裏に寫せる「さんたまりやのらたにあす」の文句なり。岩崎男爵家のモリソン、文庫所藏本羅甸文聖體秘跡書(一五九五年文祿四年、長崎學林版)の一八九頁と三〇六頁とにも、このリタニアエ出でたり。参考に資すべし。

妙心寺塔頭春光院所藏の所謂南蠻寺鐘に關する嘉永七年安政元年の古文書を近時攷究するを得たるが、同文書に據れば、該古鐘は從來所説の如き天正年間京都南蠻寺の所鑄にあらずして、傳來頗る予輩の意表に出づるものゝ如し。されど其考證につきては他日を期せんとす。

以上さしあたり補遺として掲げたるが、予輩はかゝる材料の参照につきて便宜を與へられし帝室博物館の高橋健自君、津田敬武君と林若吉君と春光院住職川上孤山師とに對して感謝の意を表せざるべからず。(新村)

## 〔補遺三〕

水戸徳川圀順侯襲藏の基督教遺品は新聞紙上に報道せられしが如き近時發見の

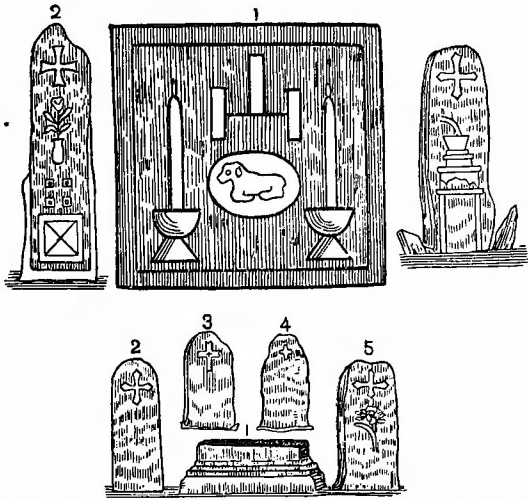
ものにはあらずして、明治以來サトー氏等の外人をはじめ、近年本邦學徒の目にも觸れしことあるものにして、予の推定せしが如く彰考館本「切支丹法器」に録せし所の遺物に外ならず。同家亦別に寛政十二年立原翠軒自筆の「吉利支丹法服諸品物目錄略圖」と題する彩色圖入の一書を藏す。彰考館本と出入あり、併せ参照すべし。

同家の遺品中、龕中磔戸一軀と著録せられし厨子入りの磔刑聖像は、東氏のそれに比して小なれど、以て東氏の聖像の原狀を偲ばしむ。蠻錢と稱せられしメダル類は同家に甚だ多く、東氏の方と同種なるもの一つあり。そは聖體秘跡圖のものにして、こゝには、葡文のものゝ外、日本文にて「さんちいしも、さからめんとたつとまれたまへ」と平假名にて四くだりに勒せるが二種あり。最も珍重すべし。螺鈿のオスチャ、盒も、名古屋發見のものど殆ど同工なるが、こは東氏の藏品には缺けたり。要は水戸藩の分は、天主堂公用の物品を押收せしものにして、高槻在の分は、一箇人の私用品を傳襲せしが爲に、遺物に種々の相違を來たせるなるべし。

侯家の所藏中、服飾類最も特色あれど、抄物類の多きことゝ、外に銅版畫帳一冊及びサトー氏の解説翻刻せる板本一冊の存することゝ、更に深く予輩の興味を惹けり。銅版畫帳の洋裝なるは、東本並に博物館本の如くなれど、むしろ博物館本の體裁に近きものあり。但し裝釘なほ崩れず、綠色のピロイド表裝の舊狀を存し、大きさ亦二者に比して大なり。抄物は、ミイサ、オラシヨ、マシダメントなどに關するものあり。又曆本も見ゆ。形式は冊子仕立のもの多く、他は銅版畫を貼りませたる卷子本、折本仕立のもの各一種あり。手蹟頗る美はしきものあり。内容につきては、東本と参照すべきもの多く、拉丁文、平假名書のもの、博物館本と似たる所あり。

以上大體の觀察にとゞめたるが、他日別に攷究を悉して發表する機あるべし。侯爵家に於て予輩の調査に多大の便宜を與へられしことは深謝せざるべからず。

嚮に生月島に發見せられし十五支義圖の部分寫眞は長崎武藤長藏氏の好意によりて目視したるが、畫風東氏の幅に比して異なる所も認められ注目し價すれども、他日原本を見て對照考究することを要すれば、今は省けり。(新村)



(氏一エグワフ) 他其碑墓徒教蘇耶古蒙

【補遺四】六七頁註(6)に關しては、其後「長崎縣史蹟天然記念物調査報告」第一號を得て、南高來郡東有家村榎木田及前田地方一帯に遺存する吉利支丹墓碑に就きて稍々詳細を知るを得たり。同書に據れば榎木田高木孫七氏の前庭にある一基は、高さ二尺八寸、前幅一尺三寸横八寸二分にして蒲鉾型をなす。表に方形の區劃をなし、内に花形十字架を刻す。其徑七寸八分、本冊第七六頁第七圖) 又た松尾治三郎氏宅前を流る溝の脇に、高木氏前庭の墓石と略同一なる墳墓二基あり、一は神として之を祀り、他は足跡臺となす。松尾氏宅より凡そ一町を隔てたる島中に亦一基あり。十字架を刻せざるも蒲鉾型なり。又々附近の溝の中に三基あり。側面に干形字の十字架を刻す。此の附近一帯は基督教盛なりし頃墓地なりしと云ふ。今皆な島地と化す。(濱田)

【補遺五】六八頁支那に於ける耶蘇教徒の墓碑中北京柳欄兒にある石棺型のもの外、立石型のもの亦た存するが如し、即ちフワグエー氏(北京(Favier, Peking Lille, 1900 pp. 120-121 : Münsterberg; Chinesische Kunst, Td. I, p. 197 轉載)に掲げたる圖を見るに、蒙古に於いて元朝の西教徒の墓石と云ふものあり、カルガンより東北三日程の地に於いて白耳義人によりて發見せられたるものなりと云ふ。表面に文字なく十字架と花卉等を刻す。多少參考す可きものなるを以て、其の圖を上に轉載することとせり。(濱田)

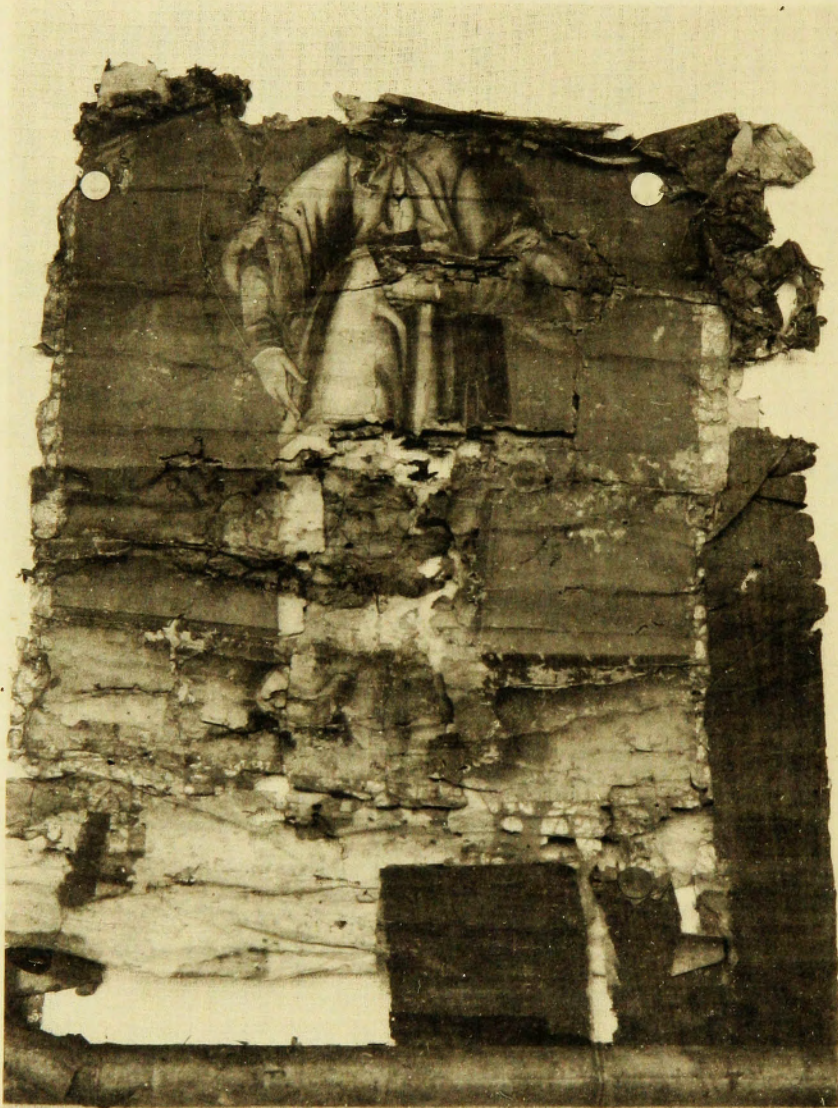
(上方(1)は墓前の石、下方(1)は喇嘛の建てたる十字架の臺石なり)



Supplement Plate, Higashi's Christian Relics

補遺圖版

東氏所藏吉利支丹遺物



畫面 豎 九寸五分 橫 七寸三分 (裏面參照)



## 補遺圖版

東氏所藏吉支丹遺物中此の畫像は製版者の誤謬等により。本文説明中終に之を脱漏したるは深く遺憾とする所なり。本圖は他の畫像と略ぼ同一の手法に出で、同一年代のものなること疑なくたゞ不幸にして頭部缺損したるを以て其の果して耶穌なるや、他の聖人なるや、將た又た聖母なるや之を決すること能はず。異日發見の資料と共に、再び詳説する所あるを期す。(新村濱田)

---

### SUPPLEMENTARY PLATE

We regret that the description of this picture in the Higashi's collection has been carelessly omitted in the text, owing to the mistake of printer. The picture seems to be in the same technic as well as same age with the other paintings of the collection. But being the head of figure damaged, it is difficult to determine whether the figure represents a Saint or the young Christ or the Madonna. We expect to have another occasion to describe the picture more fully together with the other newly discovered materials. (I. Shimmura & K. Hamada)

## REPORTS UPON ARCHÆOLOGICAL RESEARCH

Vol. I. Ornamented Tombs in Higo. ...By K. Hamada & S. Umehara.  
47 plates. (1917.) *(Out of Print)*

Vol. II. Excavation of a Neolithic Site at Kô. ... ..By K. Hamada.  
Neolithic Site at Kishi and Takayasu. ... ..By S. Umehara.  
On the Human Skeletons found at Kô, &c. ... ..By B. Suzuki.  
31 plates. (1918) *(Out of Print)*

Vol. III. Ornamented Tombs in Kiûshû. ...By K. Hamada & S. Shimaya.  
Corpus of the Yayoishiki Pottery.  
35 plates. (1916) *(Out of Print)*

Vol. IV. Second Excavation at Kô, in Kawachi. ... ..By K. Hamada.  
Study upon the Human Bones found at Kô. ...By K. Hasebe.  
1 coloured & 23 collotype plates. (1920.) (5 ¥)

Vol. V. Excavation of the Shell-Mound at Tsukumo in Bitchû.  
Excavation of the Shell-Mound at Todoroki in Higo. ...  
By K. Kiyono, M. Sakakibara, K. Hamada & S. Shimada.  
1 coloured & 52 collotype plates. (1920.) (5 ¥)

Vol. VI. Excavation of the Shell-Mound at Idzumi in the Province  
of Satsuma. ... ..By K. Hamada & S. Shimada.  
On the Shells, Animal Bones and Human Remains found  
in the Shell-Mound at Idzumi. ... ..By K. Hasebé.  
A Prehistoric Site at Ibusuki in Satsuma. ... ..By K. Hamada  
39 collotype plates. (1921.) (4 ¥)

Vol. VIII. Ancient Sepulchre at Midzuo, Omi. ...By K. Hamada & S. Umehara.  
Corpus of Gold Ear-pendants, Ring-shaped Pommels and  
Deer's Antler Work Ornaments of the Swords found  
in Japan.  
1 colored & 20 collotyp plat s (1923.) (6 ¥)

Vol. IX. 'Studies on the Rock-cut Buddhist Images in the Province  
of Bungo. ... ..By K. Hamada.  
77 collotype plates & a map (1925) (12 ¥)

**Archaeological Institute,  
Department of Literature, Kyôto Imperial University.**